

つぶやき

このコーナーでは各県の相談に対するとりくみ等を紹介していきます。

【取組紹介】

電話をして楽になってほしい（新潟県教職員組合）

新潟退女教が「親と子の教育相談室」を開室して22年。相談員は会員が交代で担います。最近は、相談件数が減少していますが、苦しんでいる子どもたちは減ってはいません。月一回の運営委員会は、みんなが集まる貴重な機会であり、事例検討や研修など、一人ひとりが思いや考えを語る大切な時間です。

さて、私たちの相談室に創設以来電話をかけてくれる二人の相談者がいます。Aさんはまだ若そうですが、声で相談員が誰かを言いあてたり、相談員の名前を聞き出したりする才能の持ち主です。最初の頃を知る人の話では、今は随分しっかりしてきたそうです。自立のために今頑張っていると聞くと、

彼女の回復ぶりがうかがえてうれしくなります。Bさんは、二人の息子さんが不登校だったので、自分の不安を相談してきました。今は息子さんたちは、社会人や大学生になっています。でも電話は続いています。

電話相談は、顔が見えず、結果もほとんどわかりません。相談員の心に重く残ることもあります。いつも話題に上る二人の相談者からは、心を埋める何かをもらっているような気がします。

私たちの役割は、これからも相談者の話に謙虚に誠意をもって耳を傾けることです。不登校や引きこもりで苦しんでいる人たちにとっては、電話だけでなく、人が寄り添えるような体制を充実させてほしいと願っています。

【地域紹介】

新潟県教職員組合会館は、信濃川の右岸、県庁の隣に建っています。

組合執行部は、組織率80%を割らないために、きめ細かなオルグや情宣を続けています。県との交渉は、子どもたちの幸せを優先に、教職員の勤務改善などにも成果を上げ、「教育を良くする県民会議」（市民・高教組・私学共闘）の中心となって、小学校は5年生まで、中学校1年生の35人以下学級を実現させました。



新潟県教職員組合会館